

ワカヤマソウリュウ編

―モササウルス以外の動物化石―

有田川町は、旧3町ともに中生代の化石の産地として有名です。大正4年（1915年）には、既に鳥屋城山で発見されたアンモナイトや二枚貝の化石が報告されています。国内のアンモナイトの有名な産地は、北海道と関西です。関西では紀伊水道を囲む地域が中心で、和歌山県側では有田地域が随一の産地です。今回は、このアンモナイトについて解説したいと思います。

●アンモナイトの語源

アンモナイトは「アンモーンの鉱物」というギリシャ語です。アンモーンは、エジプトやギリシャの神話に出てくる神様です。羊のような角を持っており、その渦巻の角の形をした石ということで名前が付けられました。

●アンモナイトは貝ではなく、イカやタコのなかま

アンモナイトは、恐竜たちが生きていた中生代よりも古い時代である古生代に出現した「頭足類」と呼ばれるイカやタコの仲間です。アンモナイトは海に生息し、鋭い顎器や歯舌と呼ばれる器官を使ってカニなどの甲殻類や二枚貝などを食べていました。

アンモナイトは、時代によって細かな模様や形に違いがあります。そのため化石が見つかったと、その地層の時代を特定することができます。このように時代の特定ができる化石を、示準化石しじゆんといっています。

●通常巻きと、異常巻きのアンモナイト

アンモナイトは世界中で見つかりますが、日本では特に「異常巻き」と呼ばれる、通常のくるくると巻いた形と違う種類のものがたくさん見つかります。異常巻きのアンモナイトは、一見すると泳ぐのには適していなさそうな形をしています。数値解析でシミユレーションしてみると、合理的であることが確認されています。有田川町からは、通常巻きのパキディスカスやゴードリセラス、異常巻きのディディモセラスやプラピトセラスといった種類が発見されています。



異常巻きのディディモセラス



通常巻きのパキディスカス

(提供：和歌山県立自然博物館)